

平成25年度 大館市立花岡中学校 学校評価書(前期・年度)

学校教育目標

郷土に誇りをもち、主体的・創造的に生きようとする生徒の育成

めざす生徒像 (校訓)

- (1) 感謝と思いやりの心をもち、進んで人の役に立とうとする生徒 (誠実)
- (2) 正しい判断力をもち、健康で明るい生活のできる生徒 (自律)
- (3) 夢と志に向かい、自ら学び、自ら考え、自らを高める努力ができる生徒 (努力)

めざす学校像

- (1) 生徒一人一人が、存在感もてる学校
- (2) 地域に信頼され、地域と共に歩む学校
- (3) 整然と美しく、潤いのある学校

めざす教師像

- (1) 生徒の心に寄り添い、保護者の思いに心を馳せることができる教師
- (2) 教育に対する情熱をもち、自らの資質向上に努め、不断に研修を積む教師
- (3) 教育公務員としての自覚をもち、生徒・家庭や地域から信頼される教師



花壇作業



研究授業:3年英語



ピア カウンセリング



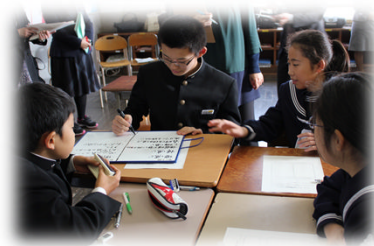
研究授業:1年体育



3年生合唱



三校交流授業



研究授業:2年音楽



ようこそ先輩課外授業



ココロの教室

評価

学校運営の状況	自己評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好 良好 おおむね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
				4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
				3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
				2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
				1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い
生徒の状況	自己評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好 良好 おおむね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
				4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
				3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
				2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
				1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 組織・運営				
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	渋谷でのPR活動、きりたんぽまつりでの活動を通して、地域に対する思い・誇りが強くなっている。
	年度	おおむね良好	良好	地域との関わりもすばらしいので、継続して頑張ってもらいたい。
学自 校己 の評 改価 善の 策の 概要 と	【前期(→年度)】本年度の重点目標を明確にし、職員の共通理解を図り、校内評価委員会等をととしてPDCAサイクルを行うことができた。必要とされる授業の確保を行い、「郷土に誇りをもつ生徒」を目指して本校独自の教育活動が展開されてきた。年度末に向け、表現力の育成を図りながら更に「主体的・創造的」な力も高めていきたい。また、事務処理等については今後もさらに適切な処理を行い、職員へも周知徹底を図っていく。			
	【年度(→次年度)】教職員に重点課題と目指す生徒像が明確に意識され、教育課程も適切に計画・運用されている。ふるさとキャリア教育では生徒が充実感をもって取り組むことができた。また、地域への貢献活動が地域から認められ、生徒の自己有用感を充分高める場となった。次年度は教職員全体で様々な活動の企画・運営に取り組み、さらなる教職員の意識向上を目指したい。			

評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 明確な運営・責任体制	(1)学校評価の効果的運用	・重点課題と生徒像の明確化 ・アンケート項目の検討 ・校内評価委員会	3	3
2 教育課程の編成と実施	(2)教育目標実現のための教育活動の充実	・体験活動や地域素材を生かした教育活動 ・ふるさとキャリア教育	3	3
	(3)学習指導要領に沿った教育課程の編成	・適切な時数配分 ・授業時数の確保		
3 効果的な事務運営及び事務処理	(4)各種会計管理の徹底	・学校納金の適正な管理 ・各種会計の執行状況の周知	4	4
	(5)校外個人情報管理の徹底	・管理マニュアルの作成 ・情報漏洩防止の徹底		

(2)に関するデータ **教育活動の充実** ふるさとキャリア教育の充実(ふるさとと母校への誇りの醸成)

ガイドボランティア



生徒の感想

・二日目は説明だけではなく、余談も交えることができた。子どもと視線を合わせて話すことが自然にできていたことに自分でも驚いた。
・人と関わることが苦手で緊張した。慣れてくると笑顔にも気を付けることができた。また、聞き取りやすい声や立ち位置を考えて動けた。
・最初は不安だったが感謝されたら、私がやらなきゃ、楽しくやろうという気持ちになった。



公民館行事への出演

地域の声：中学生が初めて出演してくれて良かった。楽しみにしていた。閉校するのは寂しい。

吹奏楽部の演奏

アンコール!

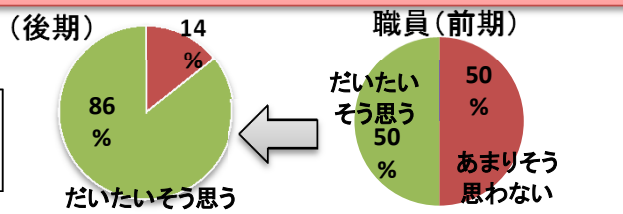


雪かきボランティア



生徒の感想：とても疲れたけれど、やりがいがあった良かった。一人暮らしの人は大変だなあと思った。おれを言われて嬉しかった。人の役に立てたのでよかった。地域への恩返しをの気持ちを含めてやる事が出来た。地域への人の優しさ温かさを感じた。高校入学後も様々なボランティアをしていきたい。「やってあげたい」「ありがとう」の気持ちが大切だ。

(3)に関するデータ **授業時数や教科の内容を教育課程に対応させた**



II 自主的・自律的な生活

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
元気な挨拶をし、規律ある生活を送りながら、目標達成に向けて主体的に取り組もうとしている。	前期 おおむね良好	おおむね良好	先生方と生徒・保護者との間に認識のギャップがあるので、それを埋めるようにしていくと良いと思う。
	年度 おおむね良好	良好	あいさつ等について、いろいろな対策をとって指導している。ぜひ、これについても継続した指導をしてほしい。

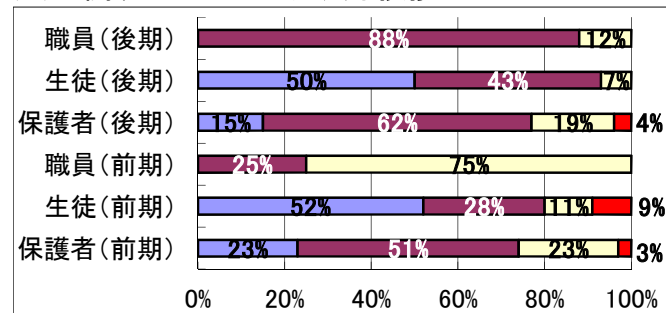
学 自 校 己 の 評 改 価 善 の 策 概 要 と

【前期(→年度)】生徒の「挨拶」の課題は、「相手に届く声で挨拶すること」と「自分から挨拶すること」の2点である。生徒と職員とが目指す姿を共有するため、まずは教師が率先垂範していく。また、毎朝のあいさつ運動を改善しながら、粘り強く取り組んでいく必要がある。集団生活に関しては、生徒会後期委員会の再編を機に、日常の係活動の内容を生徒に再確認させ、教師が見届けることで責任感を育み、学校生活を規律あるものにしていきたい。

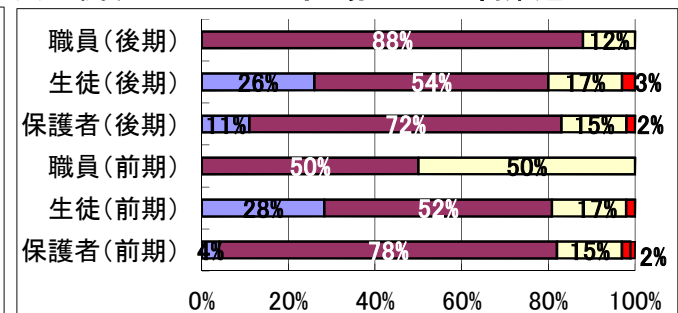
【年度(→次年度)】二中との交流会・挨拶運動の見学により、生徒と職員が目指す挨拶の姿を共有した。更に実践に結びつけるための「挨拶の仕方の集会」を行った結果、朝のあいさつ運動や、校内での挨拶に改善が見られた。今後は、「笑顔で」「目を見て」挨拶ができるような取り組み(集会等)を考えていきたい。当番活動や生徒会活動など、自分の役割について、与えられた役割を果たすだけでなく積極的に取り組めるような活動の工夫をしていきたい。問題行動については全職員の協力のおかげで迅速な対応ができたが、事後の対応ではなく予防的取り組みを考えていきたい。

評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 基本的な生活習慣	(6)時と場に応じた挨拶	・あいさつ運動 ・小学校との連携 ・他校との連携	3	4
	(7)時と場に応じた言葉遣いとマナー	・月目標 ・集会活動による啓蒙		
5 集団生活・集団活動	(8)規律ある校内生活	・月目標 ・生徒会活動	3	3
	(9)自分の役割に責任をもつ態度の育成	・当番活動 ・係活動 ・委員会活動 ・部活動		
	(10)問題行動の早期発見と迅速な対応	・定期的な相談活動 ・必要に応じた相談活動		

(6)に関するデータ 元気な挨拶



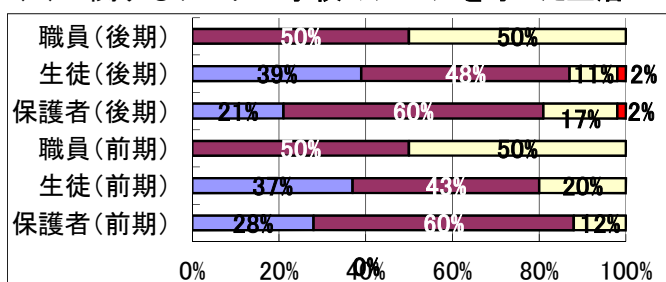
(7)に関するデータ 時と場に応じた言葉遣い



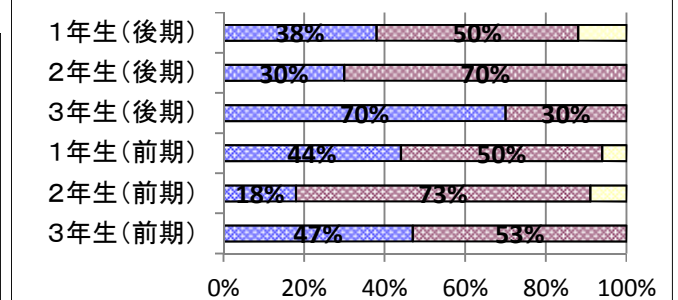
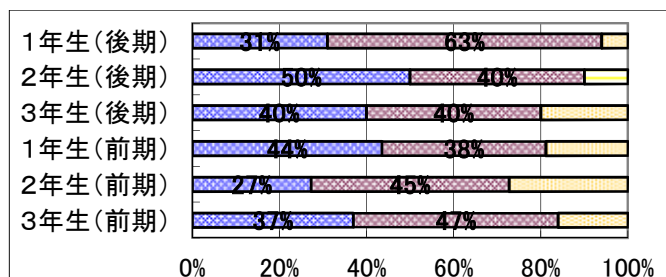
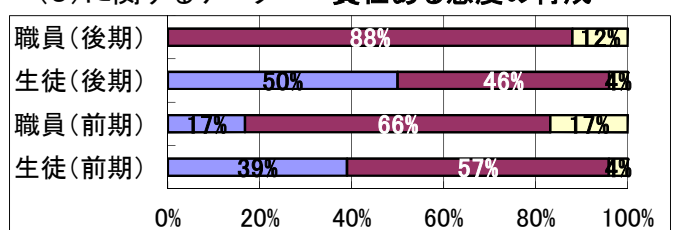
保護者アンケート自由記述より

- ・生徒玄関入り口に、挨拶運動の当番の紙を貼り、学校側の取り組みや子どもたちの挨拶に対する心掛けが向上していることが伝わってきました。
- ・どこへ行っても言われますが、花岡中の生徒は挨拶がしっかりしていると。

(8)に関するデータ 学校のルールを守った生活



(9)に関するデータ 責任ある態度の育成

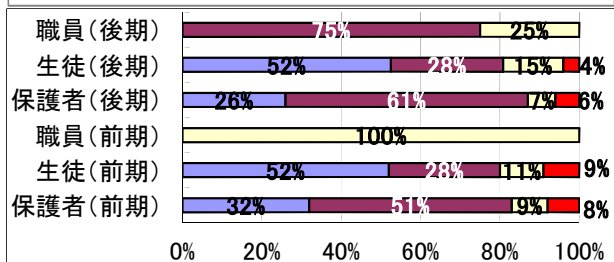


Ⅲ 思いやりの心・たくましい心				
生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨し合いながら、安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育てようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	自分の良さを発揮したり、間違いを温かく見守る雰囲気作り、益々取り組んでほしい。
	年度	良好	おおむね良好	生徒が自信をもって活動する場を多く設定しているため、これからも自立心や自己有用感を育ててほしい。思いやりの心も育ててきている。
学自 校己 の評 改価 善の 策概 要と	【前期(→年度)】生徒はお互いの良さを認め合う学級や学校生活に安心感をもって生活している。しかし教師は、もっと主体的に活動できる生徒に育てたいと考えている。そのため、短学活の学級プログラム等とおして、自ら企画し活動できる場づくりをし、積極性を育みたい。行事や部活動を終えての達成感良好であった。事前指導を徹底しながら、今後も生徒が満足感を得られるよう、支援していきたい。			
	【年度(→次年度)】教師が積極的に短学活の充実や主体的に活動できる場の工夫を行った結果、生徒は互いの良さを認め合えるようになってきている。また、学校祭や球技大会などを通して、友達の良さを再認識したり、達成感を味わったりする事ができた。部活動については、もっと意欲や目標をもって取り組めるような活動の在り方を検討していきたい。			

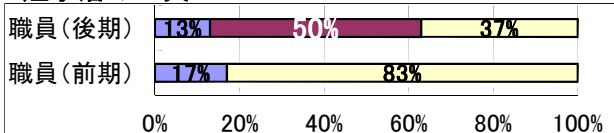
評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 開かれた心と自立心	(11)よりよい人間関係を構築する特別活動	・学級活動 ・委員会活動 ・生徒総会 ・短学活の充実	3	4
	(12)生徒が自信をもって、積極的に取り組む活動	・主体的に活動できる場づくり ・学級での意識づけ ・部活動		
7 一人一人の良さを発揮	(13)互いの良さを認め合う学級	・友達の良さを認め合う場の設定 ・学年通信での紹介	4	4
	(14)達成感を味わわせ、行動力を育てる学校行事	・新入生歓迎会 ・運動会 ・学校祭 ・合唱祭 ・3年生を送る会		

(11)に関するデータ よりよい人間関係の構築

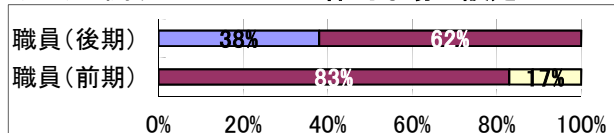
T: 生徒は自己存在感・自己有用感をもって、学校生活を送っている。
 S: 学校や学級で楽しく過ごしていますか。
 P: お子さんは充実した学校生活を送り、学校を楽しんでいると感じていますか。



短学活の工夫

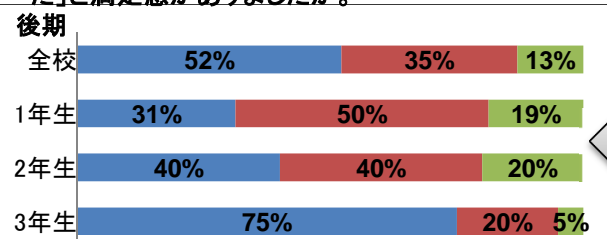


(12)に関するデータ 主体的な場の設定

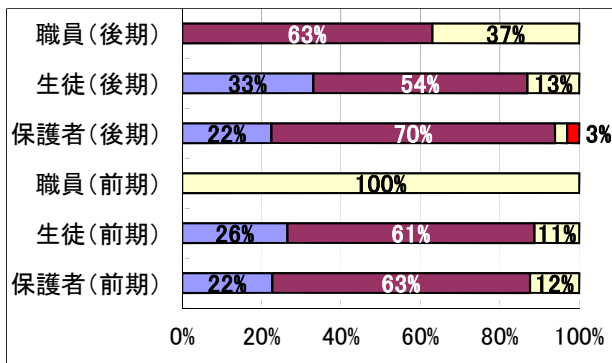


(14)に関するデータ 達成感を味わわせる行事

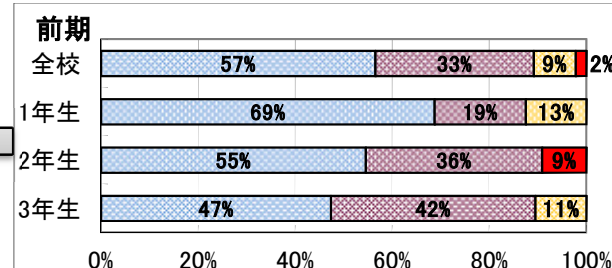
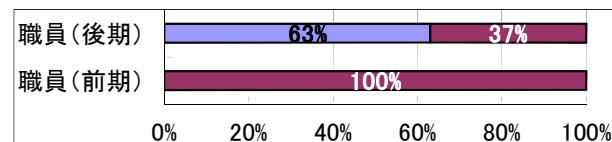
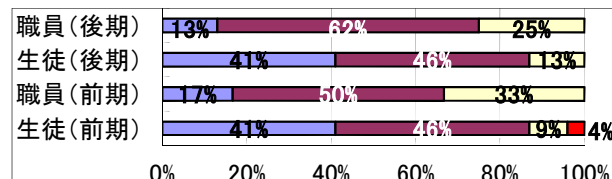
S: 行事や部活動の大会が終わった後、「やり遂げた」と満足感がありましたか。



T: 生徒は他を思いやる心が育っている。
 S: 友達や他の人に思いやりの気持ちをもって接することができましたか。
 P: お子さんは、友達や他の人に思いやりの気持ちをもって接していますか。



(13)に関するデータ 互いの良さを認め合う学級

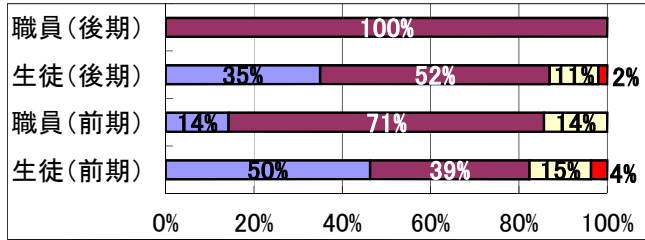


IV 基礎学力

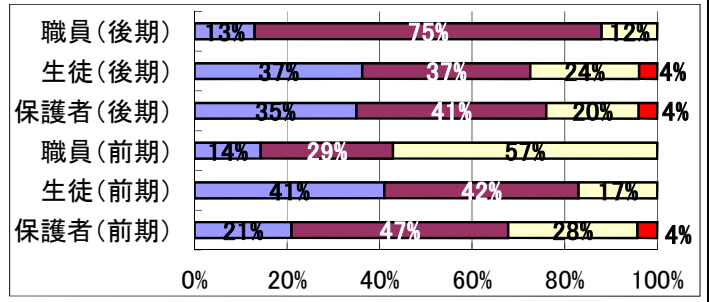
生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
意欲的に授業に臨み、基本的学習習慣を身につけながら、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	新しい試みにチャレンジしているので、今後の成果に期待したい。
	年度	おおむね良好	良好	新しい試みの成果が表れてきているし、読書等にもよく取り組んでいる。
学校己の改善の概要と	【前期(→年度)】	家庭学習に関しては、提出状況で評価した生徒と学習内容で評価した教師との差が出た。発達段階に応じた個別指導を丁寧に行い、生徒自身が学習内容を意識しながら毎日取り組めるように支援していきたい。また、表現力の向上に関しては、教師による表現の場の意図的設定も今後も継続し、表現することに慣れさせ、自信をもたせる工夫をしていきたい。		
	【年度(→次年度)】	表現力に関しては、教師側が発表の場を設定することで話型を意識しながら自分の意見を伝えようとする生徒が増えてきている。次の段階として、生徒同士の意見が繋がっていく工夫をしていきたい。ドリル学習により学習意欲の向上、家庭学習の習慣化が見られるので、今後はドリル問題の精選や家庭学習の内容指導、諸検査の結果分析を生かした補充指導等に努め、確実な基礎・基本の定着を図ってきたい。		

評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 学習への取り組み	(15)基本的な学習習慣の定着	・学習ルール ・話型	3	4
	(16)基礎的・基本的な内容の確実な定着	教材教具の有効な活用 ・ドリル学習の有効な活用 ・家庭学習の習慣化		
	(17)個に応じた指導の工夫	・効果的な個に応じた指導 ・家庭学習内容への助言		
	(18)読書活動の充実	・朝読書の充実 ・コラム学習 ・読書運動		
9 諸検査の状況	(19)NRT、学習状況調査結果の向上	・結果の分析と補充・回復	3	3
10 授業改善の推進	(20)わかる・できる授業づくり	・導入、まとめ、振り返り(評価)の工夫 ・考える場、学びあう場の設定	3	3
	(21)小・中連携による授業改善の推進	・話型を活用した言語活動 ・自己有用感を高める活動		

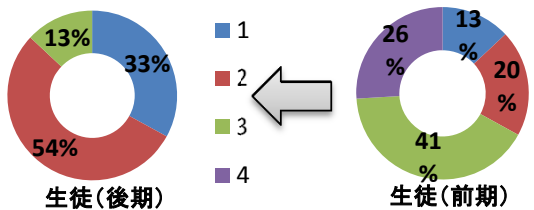
(16)に関するデータ **ドリル学習**
 T:ドリルを通して、生徒の学習意欲向上に努めた。
 S:ドリル学習に意欲的にとりくむことができましたか。



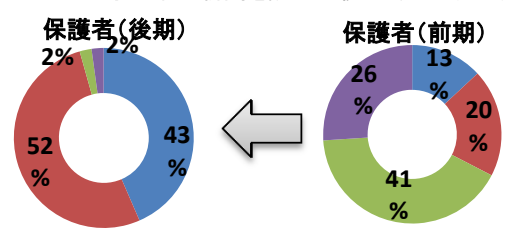
基礎的・基本的な学習定着 家庭学習の習慣化



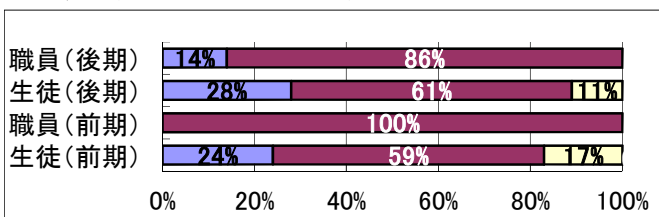
(18)に関するデータ **読書活動の充実**
 S:さわやか読書・コラムに意欲的に取り組むことができましたか。



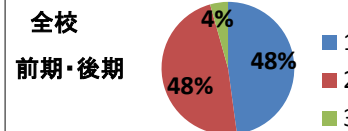
P:家で本や新聞を読む習慣がありますか。



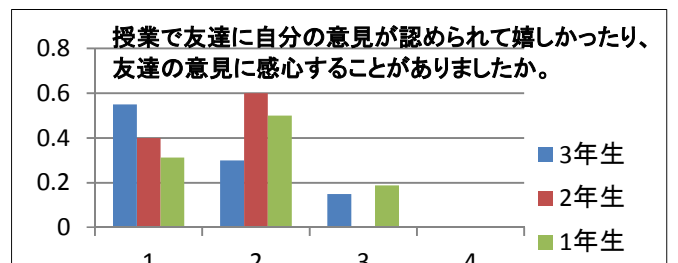
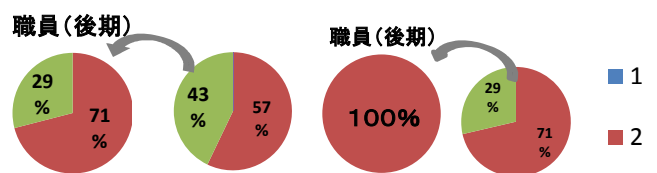
(20)に関するデータ **わかる・できる授業づくり**
 T:生徒が自分の意見や考え、思いを表現したり、学び合う場を設定したりした。
 S:授業で自分の意見や考え、思いを言葉や演技・演奏、作品等で表現することができましたか。



S:授業の最後に「わかった・できた」と思うことが出来ましたか。



(21)に関するデータ **小・中連携**
 T:授業で自己有用感を育んだ T:言語活動の推進に努めた



V 安心・安全

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
生徒への安全確保に取り組んでいて、諸問題への組織的対応が図られている。	前期	おおむね良好	アセスの結果を受けて、今後も適切な対応を継続してほしい。
	年度	おおむね良好	早期発見・即時対応、職員間の共通理解を更に進めるよう期待したい。

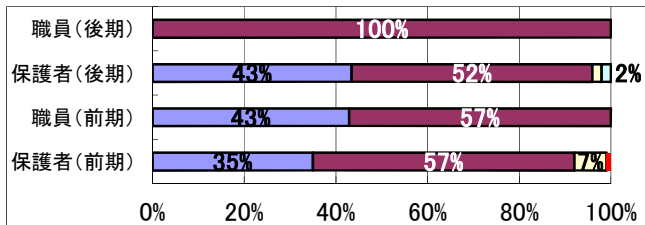
学
自
校
の
評
価
改
善
の
策
の
概
要
と

【前期(→年度)】災害時の下校グループや下校場所の確認を定期的実施した。8/9の大雨被害を受け、危険箇所確認マップを新たに作成し、安全な登下校を確保していく。今年度取り組んだアセスは、生徒の状況を知る上で有効な手がかりとなった。今後は10月下旬と2月に実施し、生徒の変容を確認しながら支援を続けていく。前期は1年生の不登校を未然に防ぐことができた。今後も情報の共有と迅速な対応で、防いでいきたい。

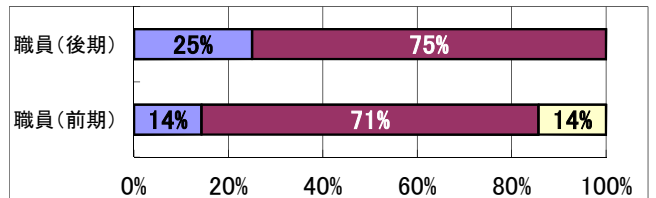
【年度(→次年度)】2学期から冬期間の避難訓練の方法と、学期に1度の下校時のグループ確認を検討する必要がある。アセスの活用により、生徒の状況の客観的な判断ができ、生活背景や人間関係などに目を向ける事ができるようになった。しかし、日々の生徒の変化は、鴻志ノートの活用や教師の日常観察等を通して、敏感に把握していきたい。更に気になる生徒については、アセスの結果やスクールカウンセラーの活用を通し、不登校などの未然防止につなげていきたい。

評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
11 安全教育と安全管理	(22)安全な登下校と継続的な防災訓練	・登下校のグループ化と下校場所の確認 ・避難訓練	4	3
12 組織的な生徒指導	(23)不登校等の未然防止と適切な対応	・アセスの活用 ・鴻志ノート ・情報の共有	3	3

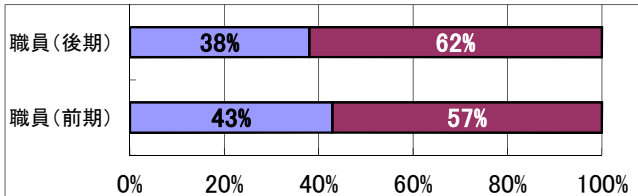
(22)に関するデータ 安全教育(避難訓練等の実施)



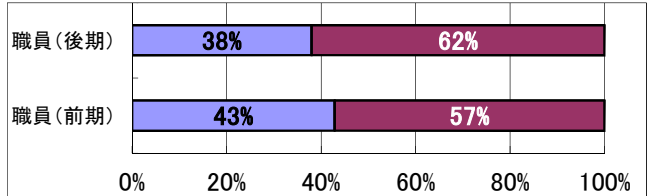
携帯電話利用のマナー等、トラブル対処の啓発



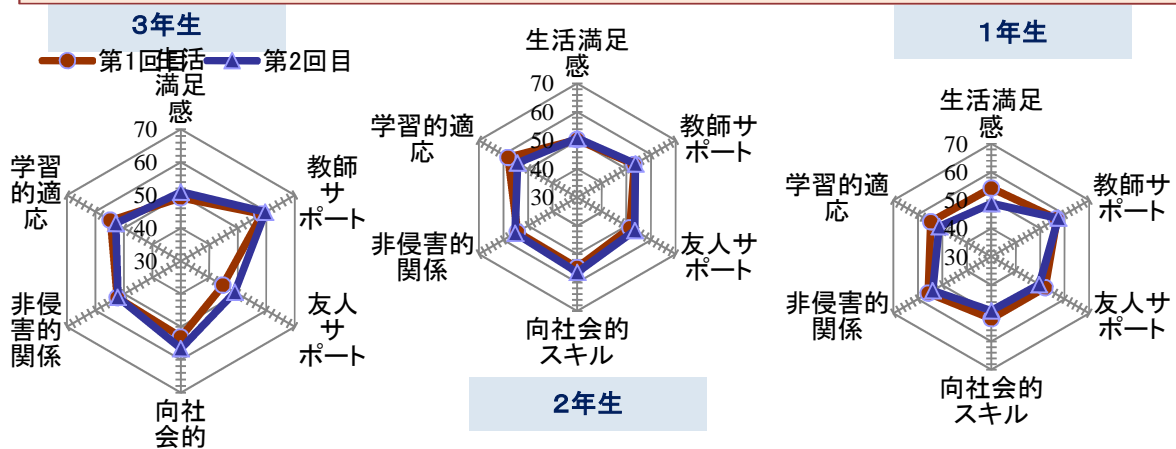
(23)に関するデータ 職員間の共通理解



早期発見・即時対応



アセス(学校環境適応尺度)の変化



生活満足感
教師サポート
友人サポート
向社会的スキル
非侵害的關係
学習的適応

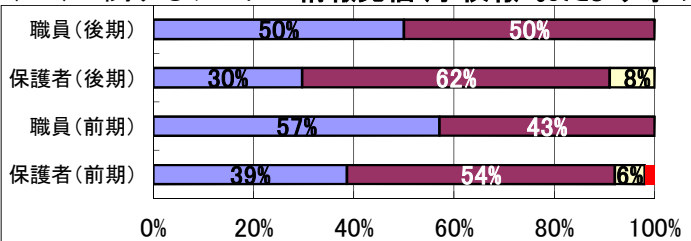
生活全体に対して満足や楽しさを感じている程度を示す。
担任(教師)との関係が良好であると感じている程度を示す。
友人関係が良好だと感じている程度を示す。
友への援助や友との関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示す。
無視やいじわるなど拒否的・否定的な友達関係が無いと感じている程度を示す。
学習の方法もわかり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示す。

VI 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
学校の取り組みを保護者や地域へ分かりやすく伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	引き続き現状を維持してほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	地域人材の活用を更に図り、充実した活動を実践してほしい。
学自 校己 の評 改価 善の 策概 要と	【前期(→年度)】 情報発信は様々な工夫が効果をあげ、職員・保護者とも高い評価を得た。また、修学旅行のふるさとPR活動のように、総合的な学習の時間等を通して地域素材の活用も行うことができた。今後は地域との積極的な相互交流やPTAとの連携を目指した活動の場を設定していく。また、その様子を適時学校報やホームページ等で、地域全体に情報の発信を行っていく。			
	【年度(→次年度)】 保護者から学校にたくさんの支援をいただき、学校も学年PTAの回数を増やしていくなどPTA相互の連携と協力体制は進んでいる。学校報や学年だより等は内容の工夫を重ねてはいるものの、学校の様子がよく伝わってはいない。この原因として生徒が保護者におたより等を渡し忘れていることも考えられる。次年度はこの点も改善を行っていきたい。			

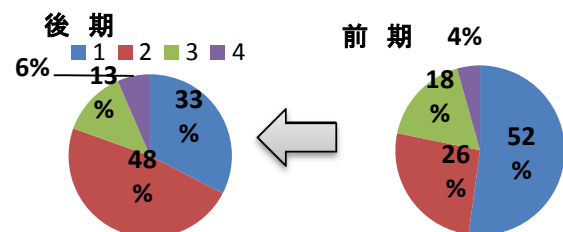
評価指標	実施課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13 情報の受発信	(24)学校と地域・家庭をつなぐ情報発信	・学校報 ・学年だより ・部活動だより ・ホームページ	4	3
	(25)学校開放の推進	・みんなの登校日 ・各種行事の案内		
14 地域の教育力の活用	(26)地域人材と地域素材の活用	・地域の自然、伝統、文化、産業、人材等の活用	4	4
	(27)PTA相互の連携と協力体制	・挨拶運動 ・運動会や学校祭での連携 ・親子奉仕作業 ・PTA会報		

(24)に関するデータ 情報発信(学校報・おたより等の内容充実)

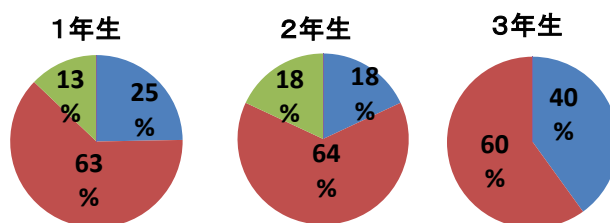


職員の情報発信に対する意識が、前期に比べてやや低くなっており、当然、保護者の評価も下がっている。詳しく見ると、3年生の保護者は全員が肯定的評価であるが、1・2年生の保護者の中に否定的な割合が1割強見られる。内容の工夫と生徒への指導を合わせて行いたい。

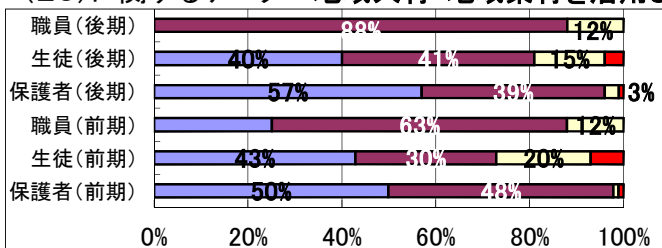
生徒: 学校報や学年だより、保健だよりを忘れず見せていますか



保護者: 学校報や学年だよりによって、学校や生徒の様子がわかりますか



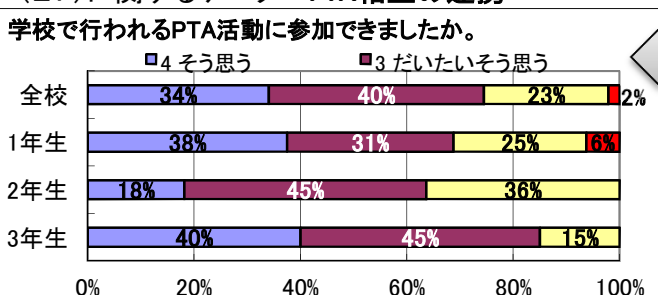
(26)に関するデータ 地域人材・地域素材を活用した体験活動



地域人材・地域素材の活用は、職員・保護者ともに「そう思う」の割合が減少している。しかし、保護者・生徒の「だいたいそう思う」の割合が増えており、概ね良い傾向にある。今後、大館工業高校の協力を得て「技術科」の学習を行う予定である。

PTAへの協力は、3年生の協力が更に伸び、2年生の「参加できた」割合が増えており、嬉しい限りである。

(27)に関するデータ PTA相互の連携



保護者(前期)

